

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Classification of congenital melanocytic naevi and malignant transformation: A review of the literature	
	論文の日本語タイトル	先天性色素細胞母斑の分類と悪性形質転換：文献のレビュー	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称		
書誌情報	エビデンスの レベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (I)	
	Pubmed ID	15544766	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Plast Surg	
	雑誌 ID		
	巻	57	
	号	8	
	ページ	707-19	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2004 Dec	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Zaal LH	Dept. of Plast. Reconstr and Hand Surg, Isala Klinieken, Netherland
	その他著者 1	Mooi WJ	Dept. of Pathology, Netherland Cancer Institute, Netherland
	その他著者 2	Sillevits Smitt JH	Dept. of Dermatol, Academic Medical Center, Netherland
	その他著者 3	van der Horst CM	Dept. of Plat. Reconstr and Hand Surg, Academic Medical Center, Netherland
	その他著者 4		

レビュー研究の6項目	目的	先天性母斑の大きさによる分類と悪性化に関する文献的検討
	データソース	MEDLINE にて 1966-2002 年の先天性母斑に関する文献を検索
	研究の選択	メラノーマとの関係、母斑サイズ分類の明記などを基準に文献を選択
	データ抽出	不明
	主な結果	1) 巨大型先天性母斑の定義としては、少なくとも 7 つの提案がなされていた。 2) 小型の先天性母斑か後天性母斑かの組織学的区別は困難であった。 3) 巨大型先天性母斑はメラノーマを生じるリスクが高いが、その率は 1 %から 31%まで、報告によって大きな開きがあった。
	結論	1) 巨大型母斑の定義を統一しておかないと、評価に混乱が生じる。著者らは、頭頸部では体表面積の 1 %、その他の部位では 2 %以上のものを巨大型としたい。(その人の手の大きさがおよそ体表の 1%に相当する) 2) 先天性母斑は可能な限り予防的に切除すべきだと考える。
レビューコメント	備考	
	レビュワー氏名	斎田俊明
レビューコメント	レビューコメント	エビデンスのレベル分類（I） MEDLINE で関連文献を検索した論文であり厳密なものではないが、システムティックレビューの範疇に入ると考える。